

回答者



笠井耳鼻咽喉科クリニック
自由が丘診療室院長
(東京都)

笠井 創

Q 鼻のレーザー治療は、効果に個人差がある？

50歳、男性です。鼻炎をくり返し、1年中鼻づまりがひどく、3カ月前に「肥厚性鼻炎」と診断され、レーザー治療をすすめられました。以前、レーザー治療を受けたことのある知人が、「最初は症状が治まっていたが再発した」といっていました。効果には個人差があるようですが、どうしてでしょうか。また、費用なども教えてください。

(千葉県 A)

A 症状の改善率は90%前後。レーザーの種類や医師の技術力などにより、効果と術後の粘膜反応は変わる

アレルギー性鼻炎や肥厚性鼻炎のある方で、標準的な治療法では自覚症状、とくに鼻づまりの改善が十分に得られない場合に適応される治療の1つが、「下鼻甲介粘膜のレーザー治療」です。

レーザーには種類があり、なかでも炭酸ガスレーザーや半導体レーザーによる治療は、処置が簡便かつ安全で、痛みと刺激が少ない点で治療を受ける方にとって、負担が少ない方法といえます。

症状の改善率は、一般に90%前後とされますが、レーザーの種類やその出力と照射時間、医師の技術力によっても、治療効果と術後の粘膜反応は大きく変わってきます。

レーザーの出力を強く、焼く時間を長くすれば、治療効果の持続期間も長くなることが期待できます

が、「たった一度で」「完全に治す」という理想の治療方法ではありません。

鼻の粘膜構造がなくならない限り、永久的に症状が現れないということではありません。

鼻中隔彎曲症や副鼻腔炎のある方などでは、レーザーによる下鼻甲介粘膜の焼灼だけでは効果が十分ではないこともあり、それぞれ鼻中隔矯正手術や副鼻腔炎の治療を併用する必要があります。

鼻粘膜に対するレーザー治療は保険適用になり、片側の下鼻甲介粘膜のレーザー治療は3割負担の方で2700円です。レーザー治療と類似の手術的治療に、高周波あるいは

ラジオ波凝固治療、アルゴンプラズマ凝固治療、超音波メスといった医療機器を用いた手術方法があり、治療費も同じです。

レーザーによる下鼻甲介粘膜の焼灼術をくり返しても鼻づまりが十分に解消しない場合、ラジオ波凝固装置による下鼻甲介粘膜の電気凝固治療で効果がみられることがあります。

鼻腔粘膜焼灼手術後の粘膜表面にはかさぶたが付着し、一時的に鼻の調子が悪くなることが多いのですが、1〜2週間を過ぎると改善していきます。後期の合併症で多いのは粘膜の癒着ですが、術後処置治療で改善できます。

◆下鼻甲介の炭酸ガスレーザー治療（右鼻腔）



治療前：下鼻甲介が青白く腫れ、水様性鼻漏が多い。



治療直後：炭酸ガスレーザーで、下鼻甲介粘膜を焼灼した直後の様子。



2カ月後：下鼻甲介が縮小し、水様性鼻漏が減少した。